

局部的には養鶏、養豚の大規模な企業経営が行われているが、一般に従来通りの農業を行っている。この地域の特徴として、養蚕普及率も30~70%と県の平均(30%)を上まわり現在も県の有数の養蚕地域であり、今後も養蚕を中心とした農業経営を行っていくようである。

西部は林業は江戸時代からの伝統的産業で短期伐採と労働力を多く使う事が特徴となっていて樺ひのきの良材地として有名であるが、現在は人手が都市労働者として吸収され又外国材の安価なものの導入で昔のような活発さはなくなっている。しかしこの地域の重要な産業の一つとして現在もその地位を保っている。

御殿場周辺の地理学的考察

浅井美恵子

第一章：調査地域の自然環境

調査地域は富士山東麓で、北は丹沢山地、東は箱根外輪山、南西は愛鷹山に囲まれた南北15Km東西11Kmにわたる盆地状の地域である。御殿場市街附近で海拔456mの高原で、市街と富士山頂を結ぶ線が、南流する黄瀬川と北流する酒匂川の分水嶺となっている。地形は、富士山麓区、黄瀬川低地及び段丘区、酒匂川低地及び段丘区、箱根火山斜面区、丹沢山地斜面区の5つに区分される。

第二章：人文概説

本地域は古代から東西交通の要点として栄えた所で、特に明治22年の東海道線の開通によって御殿場は、物資集散の地、富士登山口として俄かに発展した。明治45年には、御殿場を中心に、北の小山町、南の裾野町にまたがる9021町歩の富士中腹が、陸軍の演習場に設定された。当時は村民による入会が行なわれていたが、昭和25年に、連合国軍により接収されてからは、演習地内での入会は禁止され、農民に大きな影響を与えている。

第三章：農業土地利用

御殿場を中心とする富士東麓は、縄文時代からの人類居住の歴史をもち、火山山麓でありながら水に恵まれていた為、早くから水田が開け、現在も農用地の60%余りが水田である。水稲農家は全農家の85%を占め、米は農産物生産高の54.1%を占める。そして水田はその97.5%迄が1毛作田で、農業は、水田単一耕作型である。しかし水稲を中心にしながらも作目的には多彩で、水掛け菜、水掛け麦、山葵・桑・茶・牧草・花卉等が栽培されている。又養鶏、養豚を中心とする畜産も、演習場補償事業との関係で、近年さかんになってきた。農業用水は、湧水地を源として山

麓を流下する無数の小河川と、深井戸による揚水であるが、分水嶺を境にして、その北では水に恵まれ、南では、一般に不足している。従って、農業も北では水田が中心であるが、南では畑、芝地等が中心となっている。

第四章：都市化の影響

本地域は東京から87 Km、電車で2時間足らずの距離にあり、都市化の影響もかなり大きい。東の箱根火山麓は古くから別荘地として開けており、又昭和43年に東名高速道路が完成すれば、京浜大都市地帯、東海都市群への通勤圏に入る為、住宅地としての発展も期待される。近代工業は昭和35年頃から、沼津工業地帯の延長として、南部地域から勃興し始めたが、現在はまだ萌芽の状態である。また本地域は富士山を控えた観光地でもあるが、めぼしい観光資源をもたない為、富士五湖地方及び箱根地方への通過客が殆んどである。

第五章：要 約

本地域の土地利用は、農業土地利用が中心であるが、工業地、住宅地、別荘地、観光地等の都市的土地利用もあり、全体として土地利用は多角的で、今後も無駄のない土地利用を行う事によって、多彩な方面に発展してゆくものと思われる。

小牧市の地理学的考察

石 黒 洋 子

論文の内容構成は次の通りである。

第一章 概 観

第二章 歴史的発達

第三章 自然環境

第一節 気 候

第二節 地形概観

第三節 地形区分

第四節 先史時代の地形

第五節 地下水の賦存状況

第四章 農 業

第一節 概 観

第二節 農業的土地利用の変遷と農業用水